

04 OB&OG インタビュー／卒業生は、いま。
北海道から世界へ羽ばたくスタートアップを支援する。
株式会社 デジタルガレージ 執行役員
株式会社 DG アセットマネジメント 代表取締役会長
株式会社 D2Garage 代表取締役
佐々木 智也 さん

05 学生たちの素顔
0 から1を生み出す経験は、きっと未来を拓く力になる。
国際学部 グローバル・イノベーション学科1年 冬澤 遼 さん

06 先生たちのその素顔
方言研究から空間統計、AI教育まで。深化し続ける知的探究心。
情報科学部 情報科学科(2027年度就任予定)
准教授 小野原 彩香 先生

07 学生広報委員 企画ページ
キタボシ×HOKUSEI@COM
フカボリ! 北星サークル——青春進行形!
チアダンス部 STARRYS ——青春は笑顔と共に——

08 HOKUSEI INFORMATION 北星学園大学からのお知らせ
●「2027年、北星の学びが変わる。」
新たな学びを紹介する特設サイトを公開しました
まちがいさがしクイズ
北星学園大学オリジナルグッズが当たる!



02-03

特集：情報科学への挑戦

文理融合と社会実装。
新たな学びが北海道の未来をつくる。

学長 中村 和彦 教授

情報科学部長(予定) 小松川 浩 教授

【公立千歳科学技術大学理工学部 情報システム工学科】

文理融合と社会実装。 新たな学びが北海道の未来をつくる。

北星学園大学では、これまで培ってきた文系分野の教育・研究を基盤に、新たに情報科学部の設置を進めています。なぜ今、北星学園大学に情報科学部なのか？そしてその未来像とは？本学の中村和彦学長と、情報科学部の学部長に就任予定の公立千歳科学技術大学理工学部教授・小松川浩氏に語っていただきました。

学長
なかむら かず ひこ
中村 和彦 教授

情報科学部長(予定)
こまつ かわ ひろし
小松川 浩 教授【公立千歳科学技術大学理工学部 情報システム工学科】



北星の強みを活かした「文理融合」が実現

——情報科学部新設の背景について教えてください。

中村：北星学園大学では20年ほど前から教育課程を含めた大学改革の動きがありましたが、2030年に向けたリブランディングプロジェクトが2023年度より本格的に始動。その中で今年度からスタートした国際学部、そしてこの情報科学部という新学部設置計画が大きく動き出しました。これまで文系大学のイメージが強かった本学にとって、理系学部の新設は大きな挑戦でした。しかし本学がこれまで培ってきた信頼やブランドを土台として教育の領域を広げていくことは、北星リブランディングの核になると考えたのです。こうした中で情報科学分野に強みを持つ公立千歳科学技術大学との連

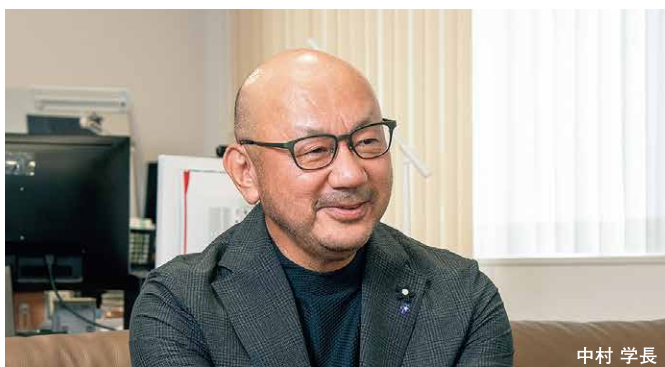
携が実現したことは、大きな後押しとなりました。現在、新たな研究拠点となる新学部棟の建設も進行中です。

小松川：いま社会が求めているのは、理系・文系の枠にとらわれず、文理双方の視点から社会の課題を発見・解決し、未来の社会を創っていける人材です。情報科学は技術や知識だけで成り立つものではありません。どれほど優れた技術も、人間や社会を理解していなければ実際の社会で活かすことは困難です。だからこそ情報科学を学ぶ学生にも、人間や社会を理解する文系的な素養が必要なのです。これまで北星学園大学と千歳科学技術大学は、ICTを活用した取り組みや教育改革に関するノウハウを共有するなど、さまざまな交流を行ってきました。千歳科学技術大学には技術系の知見があり、北星学園大学には人文・社会領域で培ってきた歴史と、社会の多様なフィールドとつながってきた実績があります。両大学が持つ強みを組み合わせることで文理双方から人材を育てる環境が生まれ、学生が挑戦できるフィールドがさらに広がっていくものと期待しています。

学びを社会で活かす「社会実装プロジェクト」

——情報科学部のキーワードの一つ「社会実装」について教えてください。

小松川：情報科学の基礎となる知識やスキルの習得は当然ですが、それだけでは十分ではありません。大切なのは、自分が学んだことが実際の社会でどう役立つのかを知ること。情報科学部では、2年生から実際の社会や企業、大学内のさまざまな関係者と関わりながら、プロジェクト型の学びに取り組んでいく予定です。自分たちが学んだ技術を社会の中でどう活かせるの



中村 学長

か。そのために何を学ぶ必要があるのか。実社会に直結する課題に向き合うことで、自分たちだけでは見えなかった世界に気づくことができます。さらに学内のさまざまな学部・教員や学生にも参加してもらい、文理を越えて一つのプロジェクトに取り組む学びの拠点をつくっていかねばと考えています。

——AIを活用した教育も大きな特徴になりそうですね。

小松川：これからの社会では、AIを使う人と使わない人の差が大きくなる可能性があります。だからこそ、大学教育の中でAIを正しく使いこなす力身につけることが重要です。情報科学部では単にAIについて学ぶのではなく、自分が興味を持っている分野の学習についてAIを活用するスキルを養います。AIに適切な質問をし、必要な情報を得て自律的に問題を解決するプロセスを学んでもらうほか、カリキュラムやシラバス、課題、ワークシート、評価基準などをAIに学習させ、学生一人ひとりの学びをサポートする仕組みづくりも検討中です。AIが学習を支援し、教員は教員にしかできないことに力を注ぐ。そうした役割分担によって、これまでにない形の手厚い学習支援を実現したいと考えています。

——文系出身の高校生も情報科学部を目指すのでしょうか？

小松川：もちろんです。情報科学を学ぶ上で一つのポイントになるのが数学ですが、文系の高校生にも対応できるよう、数学の学習支援を充実させていきます。これまでのICT教育の取り組みをもとに、文系の高校生にも対応したAIドリルなどの教材を整備し、高校段階からの学びをサポートすることも考えています。高校時代から少しずつ学び、安心して大学に進学できる。そして入学後はAIも活用しながら、一人ひとりに合った形で学びを深めていく。「情報科学を学びたい」という気持ちがあれば、文系・理系を問わず挑戦してほしいと思っています。

社会課題を解決し、30年後の北海道を担う人材を育てる

——卒業後はどのような分野での活躍が期待されますか？

小松川：これからは、建築、商業、行政、福祉など、あらゆる分野で情報技術やAIを活用することが求められます。人間と社会への深い知見に基づいて企業ごとの課題に向き合い、情報科学の知識とスキルを駆使して解決できる人。自分自身でAIを活用しながら、必要なサービスや仕組みを生み出し得る人。そうした人材が、これから多くの業界で必要とされるはずです。

中 村：たとえば福祉の現場でも、情報科学を理解する人材が一人いるだけで解決できることがたくさんあると思います。もしかしたらこれまでの福祉

の概念を変えるような画期的なイノベーションが生まれるかもしれません。長い歴史を持つ本学には、さまざまな分野で社会とつながってきた実績があります。そうした既存の分野と情報科学が結びつけば、北海道はもちろん世界中の社会課題にも目を向けられるようになるはずです。「社会の役に立ちたい」という思いを具体的な行動に結びつけ、さまざまな社会課題の解決に貢献できる人が、本学から一人でも多く輩出されることを願っています。

——最後に、受験生や地域社会に向けてメッセージをお願いします。

中 村：北星学園大学は、地域や社会に期待される大学でありたい。そして、その期待を裏切らない大学でありたいと考えています。既存の学部・学科に情報科学部が加わることでこれまで本学には在籍していなかった個性豊かな学生も集まり、多様な交流が生まれることでしょう。多様な人材と学びが交わることで、新しいことに挑戦する気風が醸成され、それぞれの専門性を融合させながら社会の課題を解決していく——私はそんな北星学園大学の未来図を描いています。情報科学部の設置を通じて、大学だけでなく、地域や社会の皆さまと一緒に新しい未来をつくっていただければ大変うれしく思います。

小松川：私は30年前に千歳科学技術大学ができた当初から学生たちを見てきましたが、彼らは今や北海道のさまざまな企業や組織の幹部として活躍しています。人材育成には時間がかかるものですが、情報科学部を卒業した学生たちが、30年後の北海道を担っている姿を想像するとワクワクします。北星学園大学がこれまで培ってきた学びに情報科学という新しい領域が加わり、文理の枠を超えた新しい人材が育っていく——その第一歩を大学関係者や学生の皆さんと一緒に踏み出すことを、心から楽しみにしています。



小松川 学部長(予定)

学科の特徴

人と社会を理解する情報科学

AIやデータサイエンスなどの先端技術を学ぶだけでなく、「人間社会への理解」と「情報倫理」を重視。人とAIが共に創る未来を支える力を育みます。

3つの専門分野で学ぶ

社会・情報ネットワーク系

クラウド・セキュリティ・ネットワーク

人間・情報システム系

プログラミング・UX・VRなど

データ活用・AI応用系

AI・機械学習・データサイエンス

興味や将来像に合わせて専門性を深めることができます。

社会とつながる実践型教育

企業や自治体と連携した「社会実装プロジェクト」を通して、実社会の課題解決に挑戦します。

学びのステップ

STEP 1 基礎を身につける

数学・プログラミング・情報倫理など、情報科学の土台となる知識を修得します。

STEP 2 専門性を深める

3つの専門分野から興味のある領域を学び、AIやネットワーク、データ活用などの高度な知識・技術を身につけます。

STEP 3 社会で実践する

地域や企業とのプロジェクトに取り組み、情報技術を社会課題の解決へ活かす実践力を養います。

STEP 4 研究・未来へ

4年間の集大成として卒業研究に取り組み、専門職や大学院進学など幅広い進路へつなげます。

本学科が養成する人材

AI・データを活用できる人材

AIやデータサイエンスを活用し、新たな価値を創造できる人材を育成します。

社会課題を解決できる人材

情報科学を教育・医療・行政・産業など幅広い分野に応用し、地域や社会に貢献できる人材を目指します。

倫理観と実践力を備えた人材

高度な専門知識に加え、人や社会を理解する視点とコミュニケーション力、倫理観を兼ね備えた人材を育成します。



北海道から世界へ羽ばたく スタートアップを支援する

旧 Twitter の日本展開を主導し、
多数の会社設立やスタートアップ投資によって
イノベーション創出に寄与してきた佐々木智也さん。
11月にグローバル・イノベーション学科で行う
特別講義に先立ち、ご自身のこれまでの歩みと
次世代スタートアップへの期待を語っていただきました。



株式会社デジタルガレージ 執行役員
株式会社DGアセットマネジメント 代表取締役会長
株式会社D2Garage 代表取締役
さ さ き と も や
佐々木 智也 さん

北海道函館市出身。1995年本学経済学部経済学科卒業。(株)道新サービスセンター在籍中、北海道新聞社に出向してネットビジネス推進事業を担当。2005年(株)デジタルガレージ入社。Twitter(現X)の日本展開を主導し、スタートアップ育成プログラム「Open Network Lab」の立ち上げにも関与。2018年に北海道新聞社と共同で(株)D2 Garage設立。2023年、官民学連携による北海道のスタートアップ支援組織「STARTUP HOKKAIDO」実行委員会副委員長に就任。

リーダーシップと“根拠のない自信”を養った4年間

北星の4年間で一番熱中したのは部活動とアルバイト。アメフト部ではキャプテンとしてチームを率いたほか、イベント系のバイトでアメフト部以外の部活やサークルにも声をかけて数十人のバイトスタッフを集めるなど、リーダーシップを執ることが多かったですね。バイトでお金が貯まるとアメリカへ渡ってNBAやMLBを観戦したり、古着の買い付けに同行したり。当時は起業やビジネスに興味があったわけではないけれど、社会やビジネスの仕組みを肌で学び、物おじせずに未知の世界へ飛び込んでいく“根拠のない自信”を養う貴重な時間だったと思います。

Twitterの日本展開、そして北海道のスタートアップ支援へ

大学卒業後、広告業界を経て(株)デジタルガレージに入社。面白いネットビジネスを展開している会社を探して投資する中で、当時黎明期だったTwitter(現X)の日本展開を主導した経験がターニングポイントになりました。価値も可能性も未知数の最先端サービスを日本に普及させていくプロセスはエキサイティングで、社会を一変させるスタートアップのエネルギーに魅了されたんです。その後、スタートアップの育成・支援プログラムの立ち上げに携わった経験を生かし、2018年に札幌で(株)D2Garageを設立。北海道から世界へ羽ばたくスタートアップの発掘・育成に取り組んでいます。今年7月にはコワーキングスペースやスモールオフィスなどを備えた札幌中心部最大級のスタートアップ拠点(HOKKAIDO STARTUP HUB Hook)

をオープン。今後は日本のスタートアップを世界で戦える規模に押し上げるために、一般個人投資家も参加できるスタートアップ投資ファンドの設立も予定しています。

北星発の「オタク」なスタートアップ誕生を願って

北海道には一次産業をはじめ、解決すべき地域課題がたくさんあります。しかしそれは、裏を返せば新しいビジネスのアイデアやチャンスが豊富に眠っているということでもあります。私がスタートアップ支援の判断軸にしているのは「オタク」であること。事業の柱となる分野にどれだけ詳しく、どれだけ情熱を注いでいるかが鍵になります。学生のうちは無理に起業を焦らず、好きなことに打ち込んで自分の中の「オタク」を育ててください。多彩な学部・学科に個性豊かな学生が集う北星から、未来のスタートアップリーダーが誕生する日を心待ちにしています。



2010年、Twitterの公式ユーザーイベント「Tweetup Japan 2010 Summer」を開催。この年は日本でTwitterの利用者が爆発的に増加し、SNSが一気に市民権を獲得しました。



アメフト部で4年次キャプテンを務めていた時、厚別競技場で撮影した1枚。当時は社会人チアリーダーにも応援してもらっていました。



国際学部 グローバル・イノベーション学科1年
ふゆ さわ りょう
冬澤 遼 さん
(札幌清田高等学校出身)

2026年4月、国際学部 グローバル・イノベーション学科 (DGi) が本格始動しました。第1期生として入学した冬澤さんは、学科と自分自身の未来を拓くチャレンジを大いに楽しんでいます。



0から1を生み出す経験は
きつと未来を拓く力になる。

好奇心を刺激する新学科への挑戦

幼い頃からアウトドア、スケートボード、音楽などいろいろなことに挑戦してきました。中学まではサッカー部、高校からはラグビー部でゲームキャプテンを務め、地域イベントの企画などにも参加。好奇心旺盛で失敗を恐れない私にとって、英語力と経営スキルを同時に学べるDGiはとても魅力的でした。先輩がおらず、就職実績がないことに不安もありましたが、プロジェクト型の実践的な学びの機会が多く「ここなら自分のやりたいことに挑戦できそうだ」と思ったんです。

起業マインドをリアルに学んだ2日間

今年5月、道内外の大学生がビジネスアイデアの企画とプレゼンテーションに取り組む「北海道アントレプレナーシップ教育プログラム」に参加しました。DGiではアントレプレナーシップ(起業家精神)を養う科目が後期から始まりますが、その前に学べる機会があるなら挑戦したいと思ったんです。プログラムでは大学の枠を超えた4名のチームで「オーバーツーリズム」の課題解決に挑戦。有名観光地への集中を解消し、地元の潜在的な魅力に出会うきっかけを提供する観光サービスアプリの開発を企画しました。さらに街頭インタビューやSNSを通じたアンケートでリアルな声を集め、企画内容をブラッシュアップ。「旅行先のリサーチはGoogleやInstagramで十分」という声もありましたが、厳しい意見こそ改善のヒントと捉え、サービスの価値向上につなげていきました。2日間という短い時間で課題の発見から検証、提案まで一気通貫で経験できたことは貴重な学びになったし、最優秀プレゼン賞を受賞できたことも大きな励みになりました。

仲間や先生方から刺激を受けて挑戦し続ける

DGiは1期生ということもあり、ひとつのクラスのような連帯感があります。チャレンジ精神あふれる人も多く、とても刺激になりますね。ユニークな経験や研究を持つ先生方も魅力のひとつ。自転車とスケートボードによる世界一周の旅で「スケートボードによる移動距離」のギネス世界記録を樹立し、アドベンチャーツーリズムを研究テーマとするトムソン先生など、興味や経験を研究や仕事につなげている姿は、自分も好きなことを大切に将来を切り拓きたいと思わせてくれます。夏休みはニセコの外資系ホテルでインターンシップに参加する予定。外国人観光客が多い環境で英語力を磨きつつ、地域や観光の「いま」を肌で学びたいと思っています。将来についてはまだ決めていませんが、在学中に0から1を生み出す経験をしたいですね。これからどんな4年間になるのかわからないけど、わからないからこそ面白い。挑戦を積み重ねた先に、自分らしい道を見つけていきたいです。



大学でもラグビー部で活動中。6月の北海道選手権大会では道内5大学合同チームのメンバーとして出場しました。



北海道アントレプレナーシップ教育プログラムではグループディスカッションやプレゼンテーションを通してさまざまな学びを得ることができました。

Featured Faculty Member

先生たちの その素顔

情報科学部 情報科学科 (2027年度就任予定)

准教授 小野原 彩香 先生

PROFILE

福岡県出身。2009年同志社大学 文化情報学部 文化情報学科卒業。2014年同大学大学院 文化情報学研究科 文化情報学専攻 博士後期課程修了。同志社大学および東京大学にて日本学術振興会特別研究員、立教大学社会情報教育研究センター助教を務め、2026年より北星学園大学に。2027年からは、新設の情報科学部に就任予定。

方言研究から空間統計、AI教育まで。 深化し続ける知的探究心。



■ 進化モデルへの興味から広がる研究の可能性

私が興味を持っているのは、“進化”—ものごとが時間とともにどう変わり、形づくられていくのか—です。言葉や文化、人の集団がどう変化してきたのかを、統計や数理モデルという手法で読み解いています。なかでも方言のアクセントを研究材料として選んだのは、変化が地図の上にくっきり現れるからです。GIS(地理情報システム)と情報理論の手法を組み合わせ、岐阜県の方言語彙から“文化のまとまり”を浮かび上げらせ、語彙がどの方向へ変化していくのかを分析しました。統計や数理モデルという手法は、扱う対象を選びません。近年は、地形・気象・地質データからワイン用ぶどうの栽培適地を機械学習で推定する研究にも携わっています。北海道はワイン産地として注目を集めていますから、情報科学部の学生にも、ワイナリーなどでのフィールドワークを体験してもらえればと考えています。

■ AI時代を生きる学生に知ってほしいこと

来春新設予定の情報科学部では、AIを使いこなして社会課題を解決したり、新たな価値を創造する人を育てることを目標としています。確かにAIはとても強力なツールで、うまく使えば理解や作業のスピードをぐっと上げてくれますし、研究面でも助けられることがたくさんあります。私の授業でも、学生自身がプログラム(Python)を書いてデータを分析し、そこにAIを組み合わせる作業を効率化する方法などを扱う予定ですが、そのなかで大切なのは、AIを過信せず「ほんとうにこれでいいのか」と自分の頭で考えること。必要があれば出典や根拠を確認し、AIを使ったこともきちんと明示すること。そうした姿勢が、これからますます重要になっていくはず。今の学生はAIが当たり前になる少し前の時代を知っている世代でもあるので、「便利そうだけれど、少し怖さもある」と受け止めている人が少なくありません。また「どういう仕組みで動いているのかを知りたい」と関心を持つ学生もいます。そういう姿勢はとても心強いですし、AIに向き合っていく上で大事な入口だと思っています。AIは考えることを手放すためのものではなく、考えるきっかけを増やすもの。AIという“内なる他者”と対話しながら自らに問いかけ、思考を深めていけたらいいですね。



2014年、博士学位授与式にて。夫と、生まれたばかりの娘と。研究者としての歩みは、子育てとともに進んできました。



制作中のオブジェ「Clairière(クレリエール)」。センサーで植物の生育環境(水分・温度・光・肥沃度)を計測し、その状態を植物の“感情”として読み取ってLEDの光で表現します。データで対象を観察する研究の、ひとつの楽しみでもあります。



本学WEBサイトコンテンツ「研究者ストーリー」で小野原彩香先生のインタビュー動画を閲覧できます。

<https://entry.hokusei.ac.jp/scholar/ohnara-a/>



青春進行形！

フカボリ！

北星サークル

チアダンス部 STARRYS ー青春は笑顔と共にー

笑顔と元気で仲間や観客、そして選手たちを応援し、演技を通して多くの人にパワーを届けるチアダンス。北星学園大学チアダンス部「STARRYS」は、息の合った演技と仲間との絆を大切にしながら、さまざまなイベントやステージで活躍しています。今回は、そんな「STARRYS」の活動やチームの魅力に迫ります！！



「笑顔」が「STARRYS」最大のパフォーマンス！
応援も全力で楽しむ！

「常に笑顔。それが一番大事です」と話してくれたのは、チアダンス部「STARRYS」の部長を務める心理・応用コミュニケーション学科3年の澤田彩羽さん。サークル名には「星のように輝く女の子たち」という想いが込められています。週1回の活動ながら、大学祭やスポーツ大会の応援、大通公園で開催されるチアフェスティバルに参加するなど、多くの舞台で観客に笑顔をお届けしている「STARRYS」。「誰かを応援するだけでなく、自分たちもダンスを楽しむことが大切」と澤田さんは語ります。大会が近づくにつれて応援する相手を想いながら練習を重ね、普段の活動では新しい振り付けにも積極的に挑戦。踊る際には、どれだけ体力を使う場面でも笑顔を保つことを意識して、ラインダンスや移動の動きまで演出の一部として魅せることで、一体感のあるパフォーマンスをつくり上げています。コロナ禍には部員減少による廃部の危機も経験しましたが、先輩たちから受け継いだ伝統を守りながら、新たな「STARRYS」を築いてきました。

初心者も経験者も大歓迎。
一緒に笑顔をお届けよう！

「全員が揃わないと一つの作品にならないところがチアの魅力です」そう語るのは、部員の野上ひとねさん。だからこそ「STARRYS」では、協調性とチームワークを何よりも大切にしています。ダンス経験の有無は問いません。初心者も経験者も、それぞれのペースで楽しみながら活動できることが「STARRYS」の魅力です。仲間と支え合い、笑顔で誰かを元気づける。その姿には、今しか経験できない青春が詰まっています。

「STARRYS」では、InstagramやTikTokを中心に活動の様子やイベント出演情報を発信しています。練習風景やパフォーマンス動画から、サークルの明るい雰囲気やメンバーの笑顔を感じることができます。興味を持った方は、ぜひSNSをチェックしてみてください。



取材当日、メンバーは明るい笑い声を響かせながら鏡の前でE-Girlsの「Follow Me」を練習していました。和やかな雰囲気の中にも、一つひとつの動きを丁寧に揃えようとする真剣な姿が印象的でした。

白・黒・金を基調としたユニフォームは、部員たちの努力によって新たに制作された自慢の一着。「大学生のうちに、かわいい衣装を着て人前で踊ることが楽しい」と部長の澤田さんは話します。





TOPICS

「2027年、北星の学びが変わる。」

新たな学びを紹介する特設サイトを公開しました

北星学園大学は「『誰かのために』であふれている。」をスローガンに、学びを「社会」と「未来」につなぐ教育改革を推進しています。情報科学部と国際学部の新設をはじめ、全学科のカリキュラムを改編。社会や地域が抱えるさまざまな課題に向き合い、未来を切り拓く力を育む学びへと進化します。また、新たな資格・免許取得への対応や新学部棟の整備も進めており、学修環境も大きく変化します。2027年は学園としても創立140周年を迎える年であり、これらの取り組みが実を結ぶエポックメイキングイヤー。変容する社会の中で「星のように輝き続ける人」を育てるために、北星学園大学が目指す新しい大学の姿を、特設サイトでぜひご覧ください。

■「2027年、北星の学びが変わる。」特設サイト <https://www.hokusei.ac.jp/hokusei2027/>

北星学園大学オリジナルグッズが当たる！

まちがいさがしクイズ

北星学園大学の構内を紹介する2枚の写真を見比べて、右の写真の5個の間違いを探してください。Webやハガキで応募すると、抽選で10名様に北星学園大学オリジナルグッズが当たるチャンス！

[今号のまちがいさがしスポット]

中庭とC館

小高い丘の上にある北星のキャンパスは、季節のうつろいと日差しの変化によって様々な表情を見せてくれます。初夏にはシンボルのライラックが咲き誇り、夏にはまぶしいほどの緑が萌え、秋はあざやかな紅葉に彩られ、そして白く染まる冬にはイルミネーションが輝きます。豊かな自然に恵まれた美しい学びのフィールドで、充実した日々を過ごしてみませんか。



★応募要項

下記応募フォームまたはハガキにて以下の内容をご記入の上、下記送付先までご応募ください。

①問題の答え(まちがい5個) ②郵便番号 ③住所 ④氏名
⑤電話番号 ⑥HOKUSEI@COMのご意見・感想

送付先：〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
北星学園大学 HOKUSEI@COM「まちがいさがし」係

■応募締切日：2026年10月30日(金) 必着

■応募フォーム：https://www.hokusei.ac.jp/hokuseicom_quiz/

★正解発表

「HOKUSEI@COM」42号
(2027年1月発行予定)に
掲載いたします。

※ご応募は1号につき、おひとり様1回までとさせていただきます。

※正解者の中から厳選なる抽選の上、当選者を決定いたします。

※当選の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お送りいただいた情報は賞品の発送のみを目的に使用させていただきます。

※ご住所・転居先の不明等で賞品をお届けすることができない場合は、当選を無効といたします。

前号の
正解

Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部

発行／広報委員会

〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号 TEL 011-891-2731(代表)

URL <https://www.hokusei.ac.jp> E-mail koho@hokusei.ac.jp